

仕事納め

2023. 12. 28

今年も、12月28日を迎えた。仕事納めである。今では、この日に何らかのセレモニーをする職場も減ってきたのではなかろうか。学校では、元々そのような慣習はない。だが、この日まで、中学3年生を担当する先生方はエンジン全開であった。今では、高校入試の大事な書類である調査書を手書きする必要がなくなり、だいぶ変わった。パソコンは便利である。

以前は、県立高校の書式、私立高校はそれぞれの書式に合わせて、一枚一枚の調査書を手で書いていた。間違えれば、書き直しである。これが、12月中の仕事だった。書いて終わりではない。点検が重要である。重層的な複眼的なチェックが必要になる。したがって、中学3年生の先生方とともに、教務主任、教頭、校長も全力での勤務となる。

仕事納めというよりは、小休止ぐらいの話だった。「じゃあ、また1月4日に会いましょう」という感じだった。今思えば、懐かしい。あの頃と比べれば、かなり改善されていることが多い。それでも、多忙感を払拭することはできない。なぜだろうか。パソコンを使っても、さほど楽にならないのである。

現在は、私立高校の入試に関しては、ウェブ出願になってきた。大学入試と同じである。時代の流れである。長女の大学入試の際に、緊張をしながらパソコンと向き合い、出願をしたことが思い出される。やってみればわかるが、非常に便利である。何の問題もない。ただ、合格発表もウェブであり、発表時刻とともにクリックする、あの緊張感は何とも言えない。今思い出しても、ドキドキしてくる。

何でもそうだが、最後というのは、特別な感慨を伴うものである。今日は、一つの区切りであることは確かである。仕事に対する気持ちを、一度リセットできる機会なのかもしれない。この「校長室だより～燦燦～」も、今号が今年最後となる。年が明けて、1月4日の937号から再開することとなる。6日間の休みというのは、校長室だよりにとっては、なかなかの長期休業である。休んだからと言って、急に紙面が変わるわけではないが、気持ち新たに向き合いたい。

この日は、家に帰り、ソファに腰を下ろすと、少しはホッとできる日である。だが、ここからが早い。すぐに仕事始めの日がやってくる。例年のことではあるが、慌ただしく時が過ぎていく。年末年始ならでは、この時期だからこそそのことをやるようにしたい。一番は、家族との時間である。普段は2人だが、4人全員がそろろう。そういえば、長男にも仕事納めがある。長女にも、来年からは仕事納めがあるだろう。もちろん、家人にもある。来年からは、それぞれが仕事納めを迎えるようになる。年末には、お互いに、ちょっとした報告会ができるようになるといい。